

(別紙)

平成30年度 産業廃棄物税基金充当事業 実績報告書

事業名：宮城県産針葉樹皮のイチゴ養液栽培への利用

事業実施期間：平成30年度～令和2年度

担当課室名：農業振興課（農業・園芸総合研究所）

担当班名：普及支援班（野菜部イチゴチーム）

TEL:022-211-2837(022-383-8135)

e-mail:nosins@pref.miyagi.lg.jp

1 事業の目的

2 当該年度の実施事業の概要・実績

宮城県産針葉樹皮は年間約6,500t排出されており、一部は製品化されているが、その利用法が模索されている状況である。

一方、震災により被害を受けた亘理町、山元町のイチゴ産地の復興では、ヤシガラを充填した培地にイチゴ苗を植え付ける養液栽培を採用し、約60haのイチゴ団地復興に、推計で約14,000tのヤシガラが使用された。しかし、ヤシガラは有機物であることから将来的には交換が必要な状況である。

そこで、ヤシガラに代わり針葉樹皮を養液栽培培地として利用する方法を検討し、林業及び木材木製品製造業から排出される針葉樹皮の農業での利用推進の可能性を検討する。

2 当該年度の実施事業の概要・実績

平成30年度は農業・園芸総合研究所園芸栽培部野菜花きほ場において、園芸用に製品化された針葉樹皮培地2種類（商品名：イデアルグリーン、イデアルファイバー）を用いて、イチゴ親株、育苗及び養液栽培用培地としての利用について既存ヤシガラと比較試験を行った。

親株への利用では、イデアルグリーン（堆肥化した針葉樹皮）とイデアルファイバー（生の針葉樹皮）では、ランナー数の発生及び獲得子苗数において既存のヤシガラ、育苗培土と有意な差はみられなかったため、親株利用の可能性が見出された。

育苗への利用では、挿し苗用の培地として育苗培土と比較したところ、育苗中期の8月の時点では、イデアルファイバー培地で、ややクラウン径が小さい傾向がみられたが、苗質では大きな差はみられなかった。しかし、挿し苗にかかる時間を比較したところ、イデアルファイバーは繊維が大きいため、ランナーピンが挿しにくく、大幅に時間がかかり作業性が悪かった。

養液栽培用培地として本ほへの利用では、定植後の生育及び収量についてヤシガラ培地と比較して差はみられなかった。このため、本ほへのヤシガラ代替培地としての利用は可能であると考えられた。しかしながら、経年変化について未検討であるため、平成31年度以降継続して試験を行う。

3 当該年度の実施事業の成果

製品化された針葉樹皮製品がイチゴの養液栽培用培地として利用可能であるか試験したところ、初年度の結果では、利用できるが、利用方法について検討の必要があることが明らかとなった。現

在は現地でイチゴ培地として利用している生産者はいないため、今後利用方法について試験を行い、普及に向けた取り組みにつなげる。

4 今後の展開

イチゴ親株培地への利用及びイチゴ本ぼへの利用の可能性が見出されたため、今後もヤシガラ培地の代替培地として経年利用できるか試験を継続して行い、適正な使用方法を明らかとし、現地への普及を目指し、宮城県産針葉樹皮のリサイクル率を高める。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果等を示す指標の数値

(指標：イチゴ高設栽培用培地入れ替え面積)

単位：a

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
0	0	0		

6 事業費の推移

単位：千円

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	平成 年度	平成 年度
4,546				